

## 2016(平成28)年度事業報告書

[2015年(平成27年)12月1日～2016年(平成28年)11月30日]

### 災害救援事業

#### 【地震など災害被災者救援キャンペーン】

##### ◇東日本大震災救援金

今年3月で発生後6年が経過する東日本大震災ですが、昨年9月時点でも警察庁のまとめで死者1万5894人、いまも残る行方不明者2557人、復興庁によれば避難生活中の震災関連死者も3400人を超え、14万4370人が避難生活を続けています。

16年度は読者から当事業団に寄せられた震災救援金500万円を、11月に日本赤十字社に寄託しました。

これまでに当事業団から日赤などに寄託した寄付金の総額は5億1307万2954円で、大阪・西部社会事業団も含めると、総額は11億2290万256円となりました。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

##### ◇台湾地震救援金

2月6日未明、台湾南部でマグニチュード6.4の地震が発生、建物の倒壊などにより死者116人、負傷者550人を数えました。当事業団は2月10日付朝刊から社告で救援金の受付を開始しました。

3月11日、台北駐日経済文化代表処に沈斯淳代表を訪ね、東京・大阪・西部の3社会事業団に集まった594件602万円の救援金を手渡しました。

##### ◇熊本地震救援金

4月14日、16日益城町で震度7を2度にわたって観測するなど、激しい地震が熊本地方を襲い、消防庁によれば12月14日現在で関連死も含め161人の死者が出ています。毎日新聞社と3社会事業団では、いち早く4月15日夕刊から救援金募集を呼びかけました。

5月に第一次贈呈分7000万円を熊本県、大分県、日本赤十字社熊本県支部、および現地で救援活動中のNGO4団体(AMDA、AAR[難民を助ける会]、ピースウィ

ンズ・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパン) に、8月に第二次贈呈分8500万円を熊本県に寄託し、3事業団からの贈呈総額は1億5500万円となっています。この間、全国各地で救援金募集のための関連イベントやコンサートなども多数開かれました。

#### ◇イタリア地震救援金

8月24日未明にイタリア中部で死者240人を超える被害を出すマグニチュード6.2の地震が発生しました。毎日新聞社と3社会事業団の呼びかけで全国から集まった109件132万4186円の救援金を全額イタリア大使館に贈呈し、11月にはイタリア大使からの礼状が毎日新聞社に届けられました。

#### ◇毎日希望奨学金

震災発生から2か月後の11年5月、毎日新聞社と東京・大阪・西部社会事業団が創設した「毎日希望奨学金」への読者からの息の長い支援は16年度も続いています。

この制度は震災で保護者を亡くした高校・大学生等へ月額2万円を正規の最終卒業年度まで給付するもので、返還の必要はなく他の奨学金との併用も可能です。初年度の156人に続き、12年度188人、13年度240人、14年度214人、15年度215人と5年間で延べ1013人に支給し、16年度も192人に支給しています。

この奨学金の趣旨に賛同していただいているミュージシャンからの支援活動も続いています。16年3月15日のサントリーホールでのクラシックコンサート「がんばろう！日本スーパーオーケストラ」では、終演後、出演した演奏家たちが自ら募金箱を持って、奨学金への寄付を呼びかけました。その他、多くの企業や団体、財界からも震災遺児支援へのお力添えをいただいています。

## 社会福祉事業

#### ◇児童養護施設へのプレゼント

歳末助け合い募金を原資に実施している事業で、16年度で48回目となりました。最近では親の死亡や離婚などだけでなく、実の親による育児放棄や虐待が原因での入所児童も増え、定員枠を広げて受け入れる施設もあります。16年度も、東日本地域の民間施設244カ所を選び「スポーツ用具」「文具」「木製おもちゃ」などを贈りました。

費用は461万7201円でした。

#### ◇ホームレス支援

歳末助け合い事業のもうひとつの柱として、路上生活者の方々が少しでも温かい年末年始を過ごせるよう、東京都台東区の山谷地区で支援活動続ける山谷兄弟の家伝道所「まりや食堂」、特定NPO法人「自立支援センターふるさとの会」、ホスピスケア施設「きぼうのいえ」、アルコール依存症からの脱却・自立を支援している横浜市の「市民の会寿アルク」の4施設に助成を続けてきましたが、16年度はさらに山谷で無料診療や炊き出しを行うNPO法人「山友会」と同じく宿泊施設事業や訪問看護事業を行う「友愛会」を助成先に加え、計120万円の助成額となりました。

#### ◇第46回毎日社会福祉顕彰

第46回毎日社会福祉顕彰の贈呈式を16年10月21日に開催しました。受賞された個人・団体は次のとおりです。受賞者には各100万円を贈呈しました。

- ① 公益社団法人「青少年健康センター」（齋藤友紀雄会長。東京都文京区）＝精神医学や心理学の専門家らが設立し、不登校や引きこもりの若者とその家族を30年にわたり支援し続けています。
- ② 家常恵さん（元大阪府中央子ども家庭センター所長。大阪府大東市）＝大阪府の児相職員として、また退職後、民間にあっても、子どもを虐待から守る活動を55年以上続けてきました。
- ③ 特定非営利活動法人「地域活動支援センターおおぞら」（植村ゆかり理事長。鳥取県米子市）＝広く障害者の社会参加を支援し、この10年にわたり地域に密着した障害者の複合競技大会も企画、運営しています。

#### ◇第27回雪と遊ぼう！親と子の療育キャンプ

当事業団と日本肢体不自由児協会、NHK厚生文化事業団との共催事業。16年は1月9日～11日の2泊3日、新潟県南魚沼市の八海山麓スキー場で開催しました。児童16人とその保護者、ボランティアリーダー、医師、看護師、スタッフなど合計79人が参加しました。分担金100万円を支出しています。

#### ◇第60回手足の不自由な子どものキャンプ

当事業団と日本肢体不自由児協会、東京YMCAとの共催事業。16年8月14日～19日の5泊6日の日程で、山梨県の東京YMCA山中湖センターで開催しました。障

害のある小学3年生から高校3年生までのキャンパー33人と、ボランティア、スタッフ、医師、看護師などの約100人が参加しました。分担金は150万円。

#### ◇母の日・父の日募金キャンペーン

05年から始まった「母の日・父の日あしなが募金キャンペーン」は07年度から「母の日・父の日募金キャンペーン」として、あしなが育英会への寄付だけでなく、児童養護施設の子どもたちへの支援活動にも役立てています。16年度は6月17日に毎日新聞朝刊でキャンペーン記事を掲載、東京・大阪・西部の3社会事業団に113件、194万6892円（うち東京は55件99万3992円）の寄付が寄せられ、寄付金の2分の1を「あしなが育英会」に贈呈。残り半分をNPO法人「交通遺児等を支援する会」、「日向ぼっこ」、「ブリッジフォースマイル」、「青少年の自立を支える福岡の会」、社会福祉法人「カリヨン子どもセンター」、「CVV（社会的養護の当事者支援）」に贈りました。

#### ◇第85回全国盲学校弁論大会

視覚障害者の自立と社会の理解を促進するために点字毎日、全国盲学校校長会と共催している事業です。10月7日に大阪市で開催しました。分担金は20万円です。

#### ◇声の点字毎日の発行

点字毎日、大阪・西部社会事業団との共催事業である「声の点字毎日」の発行分担金10万円を16年度も負担しています。

#### ◇第49回日本陶芸倶楽部会員チャリティー作品展

日本陶芸倶楽部、NHK厚生文化事業団との共催事業。毎年5月に東京・日本橋の三越本店で同会員のチャリティー作品展を開催。本事業団とNHK厚生文化事業団は広報活動を担当。16年度は販売純益から122万8727円の寄託を受け、別途50万円が毎日希望奨学金にも寄託されました。

#### ◇東京ヘレン・ケラー協会への助成

同協会は視覚障害者の更生施設としてヘレン・ケラー学院を経営、あんま・マッサージ・指圧、はり、灸などの資格習得のための教育、点字出版物の印刷発行、点字図書館の運営をしています。本団は同協会の設立に関わったことからヘレン・ケラー学院や点字図書館への助成、ヘレン・ケラー記念音楽コンクールへの助成、海外盲人交流事業としてネパールの視覚障害児への就学支援を続けています。例年312万円を助成していますが、16年度は第66回ヘレン・ケラー記念音楽コンクールに20万円の単年度追

加助成を行いました。

#### ◇交通遺児等を支援する会への助成

交通遺児家庭を支援するため、同会が行う「バスハイク」「クリスマスプレゼント」「入学お祝い金」として20万円を贈呈しました。

#### ◇地域医療研究・実習への助成

16年度は前年同様、4大学のサークルから助成申請があり、東京慈恵会医科大学、慶應義塾大学医事振興会、東京女子医科大学、松本歯科大学に計68万円を助成しました。医療の手が届きにくい地域の高齢者施設や障害者施設での保健指導・健康相談や、離島での医療実習など、4大学の医学生たちが地域医療研究と実習を行いました。

#### ◇アジア社会福祉従事者研修修了生助成事業への助成

全社協がアジア地域での社会福祉ネットワーク作りのために実施している同事業に対して40万円の助成を16年度も実施しました。

#### ◇いのちの電話への助成

1971年に設立された電話相談事業は46年目を迎えました。ここ数年、自殺者は少しずつ減少しているものの、若者の自殺は増え続け、今も年間約2万2000人が自らの命を絶っています。

いのちの電話・東京では290名ほどのボランティア相談員が年間約27000件もの相談を休みなく受けています。その運営は民間の助成に頼るところが大きく、16年度も30万円の助成を実施しました。

#### ◇青少年健康センター・クリニック絆への助成

精神医学・心理学分野の優れた研究者を結集して、クリニック絆を開設。登校拒否、ひきこもり、うつ病などに悩む若者に対して、自殺予防のための治療と相談にあたっています。14年度から開始した助成を16年度も継続し30万円を贈呈しました。

#### ◇療育ネットワーク川崎への助成

川崎市で障害児を抱える母親たちのネットワークづくりを進め、障害を持つ未就学児や障害児童の一時預かりやヘルパーの在宅支援などきめ細かいサポートも行っています。14年度から30万円の助成を開始し16年度も継続しました。

#### ◇子どもの虐待防止センターへの助成

児童への虐待がますます深刻な社会問題となっています。孤立して育児に悩む母親た

ちへの電話相談など、親子の悲劇を未然に防ぐための様々な支援活動を続ける同センターに対して、15年度から30万円の助成をスタートし、16年度も継続しました。

#### ◇第35回肢体不自由児・者の美術展後援と助成

障害者への理解促進につなげるため、日本肢体不自由児協会が主催しています。16年度も15万円を助成しました。

#### ◇その他の社会福祉助成

- ・日本点字図書館と日本福祉囲碁協会が共催して始めた国際視覚障害者囲碁大会への協賛と助成金10万円、2万2680円相当の参加賞（タオル）の贈呈
- ・第41回わたぼうし音楽祭の後援と助成金10万円
- ・第31回全国盲学校野球大会（16年度は北海道で開催）の後援と助成金10万円
- ・ボランティアグループおもいつきの養護施設児童臨海行事助成金10万円
- ・第65回関東聾学校体育連盟行事（野球大会、卓球大会）の後援と7万1280円相当の賞品（カップ・盾・メダル）贈呈
- ・16年度江戸っ子杯（野球大会、バレーボール・ドッジボールの部）の後援と7万1280円相当の参加賞（シャープペンシル）贈呈
- ・内閣府ほか主催する「心の輪を広げる障害者理解促進事業（体験作文及び障害者の日のポスター募集）」の後援と賞品贈呈（図書カード5万円）
- ・第44回日本車椅子バスケットボール選手権大会の後援・助成金5万円
- ・高齢社会に生きるボランティア講座（八王子市社会福祉協議会）への助成金5万円
- ・第34回福祉囲碁東京大会への協賛と4万2120円相当の参加賞（タオル）贈呈。
- ・第27回日本ブラインドテニス大会の後援・助成金3万円
- ・障害者と健常者の共生のための「わらじの会」夏合宿に助成金3万円
- ・日本点字図書館のチャリティー映画会の後援・助成金3万円
- ・第10回全東京ろう社会人軟式野球TDリーグの後援と7344円相当の賞品（優勝杯レプリカ）贈呈
- ・第41回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会（16年度は全埼玉支部の主管）の後援と7344円相当の賞品（優勝杯レプリカ）贈呈

#### ◇その他の後援事業（順不同）

- ・第53回点字毎日文化賞

- ・第46回朗読録音奉仕者感謝行事（鉄道弘済会主催）
- ・第48回東京都盲人福祉大会
- ・「ユーラシアオープン2016」第3回KWF国際親善空手道選手権大会
- ・日本リウマチ友の会 第56回全国大会
- ・第14回オンキョー世界点字作文コンクール
- ・平成28年度愛隣会チャリティ映画会
- ・第48回高木記念山中キャンプ
- ・第43回国際福祉機器展H. C. R. 2016（名義は協賛）
- ・第66回ヘレン・ケラー記念音楽コンクール
- ・第14回本間一夫記念日本点字図書館チャリティーコンサート
- ・障害連シンポジウム
- ・サイトワールド2016
- ・第13回本間一夫文化賞
- ・第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会（厚生労働省主催）
- ・きょうされん第39回全国大会 in くまもと
- ・第39回関東ろう者大会
- ・平成28年度全国社会福祉大会
- ・第54回弘済学園 わたしたちが創る展
- ・第46回耳の日記念文化祭

## 小児がん事業

### 【小児がん征圧キャンペーン】

1996年から始まった「生きる」キャンペーンは16年度で20周年を迎えました。20次小児がん征圧募金は、東京社会事業団分710万円と、大阪・西部社会事業団分を合わせて総額990万円を、16年3月に「がんの子どもを守る会」など小児がんや難病と闘う子どもたちへの支援や研究に取り組む全国22団体に贈りました。これまでの贈呈総額は3事業団合わせて3億100万円となりました。

16年度も関連イベントが数多く開催され、恒例となった森山良子さんのコンサート

「生きる～小児がんなど病気と闘う子どもたちとともに」は谷村新司さんや由紀さおりさんらをゲスト迎えて7月に開催され、今回は天皇・皇后両陛下がご観覧になりました。横浜・みなとみらいホールでの「クラシック・ヨコハマ 生きる～2016若い命を支えるコンサート」や、バイオリンの川畠成道さんによる「グランドファミリーコンサート」、シンガーソングライター細坪基佳さんや永井龍雲さんのコンサート、竹下景子さんの朗読などによる「ごえんなこんさあと」も開催され、収益の一部をご寄付いただいたり、会場募金をさせていただいたりしました。

来年度も読者から当事業団に寄せられた寄付とこれらの会場募金などを合わせて、第21次分として「がんの子供を守る会」などの各団体に贈る予定です。

#### 【第20次小児がん征圧募金贈呈先】（順不同）

がんの子どもを守る会▽そらぷちキッズキャンプ▽白血病研究基金を育てる会▽スマイルオブキッズ▽ファミリーハウス▽メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン▽難病のこども支援全国ネットワーク▽パンダハウスを育てる会▽小児脳腫瘍の会▽アジア・チャイルドケア・リーグ▽ゴールドリボン・ネットワーク▽チャイルド・ケモ・サポート基金▽日本クリクラウン協会▽近畿小児血液・がん研究会▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」▽京都ファミリーハウス▽あいち骨髄バンクを支援する会▽にこスマ九州▽久留米大学病院親の会「木曜会」▽九州大学小児医療センター親の会「すまいる」▽小児がん経験者ネットワーク「シェイクハンズ！」▽宮崎大学医学部小児がんキャンプ実行委員会（以上22団体）

## 海外難民救援事業

#### 【海外難民救援キャンペーン】

15年度の紙面キャンペーンは「最貧国で生きる女の子」をテーマに、宗教的、伝統的に女性に対する性差別が根強く残るネパールで、「女の子だから」という理由で教育の機会を奪われ、将来を制限され、厳しい環境に追いやられながらも必死に生きる少女たち取材しました。国連が女子差別撤廃のため制定した「国際ガールズ・デイ」（10月11日）に合わせて「少女たちの祈り」と題して連載され、読者の反響を呼びました。



東京社会事業団分590万円と大阪・西部社会事業団分を合わせた15年度分の海外難民救援金1080万円を、16年3月に国連救援機関や難民支援活動をしているNGO（非政府組織）など24団体に贈呈しました。1979年以来、これまで贈呈した救援金の総額は、3事業団合わせて16億503万8344円となりました。

16年度は、中東ヨルダンで取材したシリア難民の生活を「熱砂のかなたに」というタイトルで連載しました。シリア内戦で約480万人が国外に逃れ、そのうち65万人は隣国ヨルダンで帰郷を願いながら厳しい生活を続けています。戦いの巻き添えで家族を失ったり負傷したりしながら、必死の思いで故郷を離れ、終わりの見えない紛争に運命を翻弄されながらも、慣れない環境下で懸命に生きる難民とその子どもたちの姿を報告し、多くの読者から救援金が寄せられました。16年度に集まった救援金は17年3月に贈呈する予定です。

#### 〔15年度分の海外難民救援金贈呈先〕（順不同）

日本ユニセフ協会▽国連UNHCR協会▽国連世界食糧計画WFP協会▽国境なき医師団▽AMD A▽シェア(国際保健協力市民の会)▽JEN▽シャンティ国際ボランティア会▽AAR(難民を助ける会)▽JVC(日本国際ボランティアセンター)▽ピースウィングス・ジャパン▽緑のサヘル▽ワールド・ビジョン・ジャパン▽難民支援協会▽ネパール・ヨードを支える会▽マナムニ母子寮関西連絡所▽ハイチ友の会▽日本ネパール女性教育協会▽シエラレオネフレンズ▽ラリグラス・ジャパン▽アジア協会アジア友の会▽アイキャン▽ペシャワール会▽ロシナンテス(以上24団体)



平成28年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第三十四条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成29年2月

公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団